

# 七飯高 23日からコンコード町訪問

## 米姉妹校と深まる交流

【七飯】昨年4月に姉妹校提携を結んだ七飯高(小越康雄校長、357人)と米国マサチューセッツ州コンコード町のカーライル高の交流が活発化している。今月23日からは吹奏楽局などの1〜3年生計55人がカーライル高を訪問。「友好を深める絶好の機会」と、生徒たちの学習意欲も高まっている。

(則定隆史)

今春、インターネット上で月2回ほど発行されるカーライル高の学生新聞「The Voice」に七飯高生が英語で書いた記事の掲載が始まった。姉妹交流をきっかけに実現した、生徒の声を届ける取り組みの一つだ。初回に取り上げたテーマは「東日本大震災」で、英語部の志南谷瞳さんが「深刻な問題だけど、事実を正しく伝えたい」と、被害の実態や復興への願いを

まとめた。これまでに計3人が担当し、吹奏楽局の活動や五稜郭の歴史などを紹介した。



### 学生新聞に「いか踊り」など披露

生徒が寄稿

コンコードは東海岸のボストンに近い、人口約1万5千人の町で、1997年に七飯町の姉妹都市になった。これまでも町主催の学生派遣は行われていたが、今回の訪問は姉妹校提携を記念した七飯高として初の単独事業で、参加者数も過去最大だ。

訪問するのは吹奏楽局、英語部、生徒会の生徒たちで、渡航費の大部分は個人負担。カーライル高の生徒宅にホームステイし、授業やクラブ活動に参加するほか、ボストンでの観光なども行い、10月2日に帰国する。

生徒の大半は初めての海外。文化や言葉の壁を乗り越え、視野を広げてもらうのが狙い

で、担当する桜井みちる教諭は「世界に目を向け、将来に大きな可能性があることを感じてもらいたい」と期待する。

現地では、吹奏楽局が地域住民、カーライル高の全校生徒、地元小学生を対象に計4回のコンサートを行い、カーライル高との合同演奏も。高橋愛里香局長(3年)は「人生で一番の大舞台で、わくわくする。力を存分に見せたい」と意気込みを語る。

また、歓迎会では英語部と生徒会が、練習を積んだ日本舞踊を披露するほか、函館名物「いか踊り」で交流する。いか踊りは過去の派遣事業で披露した際、カーライル高の生徒に大人気で「両校がひとつになるためには外せない」と先方から強い希望があった。

カーライル高は約1200人の生徒数を誇り、同州のハーバード大やマサチューセッツ工科大への進学者もいる有数の進学校。生徒会長で英語部の田村紗英さん(3年)は「日本に対する印象や意見を聞いてみたい。文化や習慣の違いを体感できるのも楽しみ」と話している。

教育  
ひろば